

# ご近所さんとおつながる木の家

兵庫県加東市の分譲地に建つ木の家です。周辺集落や近隣との関係性が希薄な分譲地ですが、ご近所さんと穏やかにつながることで、新たな地域コミュニティが生まれています。



## 建築概要

敷地面積：562.50㎡（170.15坪）  
建築面積：77.01㎡（23.29坪）  
1階床面積：67.90㎡（20.53坪）  
2階床面積：28.56㎡（8.63坪）  
延床面積：96.46㎡（32.94坪）  
認定長期優良住宅  
兵庫県産材80%以上使用  
断熱性能：等級6（5地域）  
一次エネルギー消費量等級6

## 1 分譲区画の顔をつくる

分譲区画の角地に建つ家であるため、区画全体の風景の基準・顔となる建物を目指しました。サイディング材やアルミ、スレート屋根、庭はガレージしかない隣の区画と一線を画し、木材や左官といった自然素材の質感が感じられ、緑豊かな庭を持つ家を計画しました。

## 2 近隣への余白をつくる

将来的な家庭菜園スペース確保を目的とした広い敷地に、余裕のある建物の配置が可能でした。土地的に南北に風が抜けるため、南北にあわせて建物をふり、太陽と風を十分に取り込めるように計画しました。それにより、四角形の敷地形状が曖昧になりどの方向にも開かれた使い方ができるようになりました。

## 3 地元の木を当たり前

構造材・仕上げ材共に、兵庫県産木材を多用しています。柱・梁を一部現わしとし、無垢フローリングや造作家具材も、ほぼ全面的に兵庫県の杉を採用しています。特別な使い方はしていませんが、視覚的・触感的にも杉のあたたかさを感じることが出来、調湿効果で室内の空気は常に良い状態に保たれています。

# 敷地の余白

道と平行に建物を配置すると狭い通路スペースが発生しますが、建物をふると三角形の余白が生まれます。そこが近隣の子供の遊び場になったり、畑になったり、車を気にせずキャッチボールが出来る場所となります。自然と近所の子供達が集まり、住人同士の交流が生まれる場となります。



## 南向きを活かす

家族が一番長い時間を過ごすLDKを真南に配置し、大きな開口部を設けた開放的なつくりとしました。LDKの前に半間の軒を出し、ウッドデッキを設けて外とのつながりを作っています。



## 浴室の窓から光と風をとりこむ

南向きの浴室に全開口の大きな窓を取り入れることで、浴室換気扇なしで自然の風と太陽光でカラッと乾く環境をつくりました。窓から入る光は洗面脱衣室まで届き、明るく風通しのよい水回り空間となっています。脱衣室にはあえて建具を設けず、カーテンで必要時のみ仕切ること、空間の一体感を出しています。仕切らないことにより、湿度がこもらないため空気環境もよくなります。



## 木を植える

里山に自生する植物を中心に、花や実など四季を楽しみながら住人が手入れが出来るものを。



# 機能は平屋に集結

水回りやW I C L など機能部分を1 F 平屋に集中させました。浴室以外は勾配天井とし、仕切り壁で室を区切ること、天井を共有する一つの大きな空間としています。すべての日常的な支度は、このスペース内で整うため、各部屋に個別収納等を設ける必要がなくなり、家族みんなで使える広い共有空間を創りました。



## 屋根裏のような子供部屋

子供が小さい間は大きなワンルームでのびのび育てることを提案。将来的に、デスクや本棚等の家具で間仕切ること、2つの部屋として使用出来るようにしています。



## 吹抜の手摺

加東市にある国宝朝光寺。連子格子を通して本堂に入る光が本当に美しいと思います。そんな地元の国宝にあやかり、45度に角度をふった手摺を提案しました。吹抜への透け感を保ちつつ、陰影のある景色になりました。